



モモシシクイガ



ナシヒメシクイ



モモハモグリガ



チャノキイロアザミウマ



カキクダアザミウマ



チャバネアオカメムシ



カイガラムシはもちろん、 幅広い害虫防除に！

農林水産省登録 第23020号

クミアイ ススラサイド® 水和剤



クワコナカイガラムシ



クワシロカイガラムシ雌成虫(介殻)



介殻内の卵

**介殻は薬液をはじくので
若齢幼虫期に薬剤散布する！**

クワシロカイガラムシ雌1齢幼虫



サンホーゼカイガラムシ
(ナシマルカイガラムシ)



フジコナカイガラムシ



ツノロウムシ



✓ マルカイガラムシ類を始め 幅広いカイガラムシに有効！

難防除害虫であるマルカイガラムシ類（アカマルカイガラムシ、クワシロカイガラムシ、ヤノネカイガラムシなど）を始め、コナカイガラムシ類、ロウムシ類などカイガラムシの種類を問わず安定した効果を示します。

✓ 幅広い殺虫スペクトラム！

カメムシ目、アザミウマ目、チョウ目など殺虫スペクトラムが広く、カイガラムシと同時に防除できます。

✓ 効果の発現が速い！



自然に学び 自然を守る



クミカ

®は全国農業協同組合連合会の登録商標

◎：効果が高い。
○：効果がある。

適用害虫と使用方法

2019年10月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	DMTPを含む農薬の総使用回数
かんきつ (みかんを除く)	カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシを除く)	1500 倍	200～700 ℓ/10a	収穫90日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
みかん	ヤノネカイガラムシ (幼虫～未成熟成虫) カメムシ類			収穫14日前まで			4 回以内 (50～100倍希釈 散布は2回以内)
りんご	シンクイムシ類 カイガラムシ類	1500～ 2000 倍		収穫30日前まで	2 回以内		2 回以内
	アブラムシ類 ハマキムシ類 (コカクモンハマキを除く) ギンモンハモグリガ カメムシ類 リンゴワタムシ	1500 倍					
なし (有袋栽培)	シンクイムシ類 アブラムシ類 カイガラムシ類	1500～ 2000 倍		収穫7日前まで	3 回以内		3 回以内
	ナシホソガ カメムシ類 ナシチビガ	1500 倍					
なし (無袋栽培)	シンクイムシ類 アブラムシ類 カイガラムシ類	1500～ 2000 倍		収穫21日前まで	2 回以内		2 回以内
	ナシホソガ カメムシ類 ナシチビガ	1500 倍					
もも	クビアカツヤカミキリ	1500～ 2000 倍		収穫14日前まで	2 回以内		4 回以内 (200倍希釈散布は 2回以内、1500～ 2000倍希釈散布 は2回以内)
	シンクイムシ類 カイガラムシ類 モモハモグリガ						
ネクタリン	シンクイムシ類 カイガラムシ類 モモハモグリガ	1500 倍	収穫14日前まで	2 回以内	3 回以内 (収穫後～発芽前 は1回以内、発芽 後は2回以内)		
ぶどう	カイガラムシ類 チャノキアザミウマ	1500 倍	10ℓ/㎡	収穫90日前まで	土壌灌注	2 回以内 (休眠期は1回以内)	
	ブドウネアブラムシ	500 倍					
かき	カイガラムシ類 カキクダアザミウマ カキノヒメヨコバイ カメムシ類	1500 倍	200～700 ℓ/10a	収穫30日前まで	3 回以内	3 回以内	
	チャノキアザミウマ	1000 倍					
おうとう	カイガラムシ類 カメムシ類 ショウジョウバエ類	1500 倍		収穫7日前まで	2 回以内	2 回以内	
キウイフルーツ	クワシロカイガラムシ			収穫60日前まで			
うめ	カイガラムシ類 クビアカツヤカミキリ			収穫14日前まで			
すもも	シンクイムシ類 クビアカツヤカミキリ	1000 倍		収穫7日前まで	5 回以内	5 回以内	
くるみ	ケムシ類	2000 倍		収穫14日前まで			
なつめ	カイガラムシ類	1000 倍		100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	5 回以内	5 回以内
すいか	ミナミキイロアザミウマ	1000 倍			収穫3日前まで	2 回以内	2 回以内
メロン	オンシツコナジラミ ミナミキイロアザミウマ	1000 倍			収穫14日前まで	3 回以内	3 回以内
なす	ミナミキイロアザミウマ						
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	1000 倍	発生初期		6 回以内	6 回以内	
花き類・ 観葉植物	オンシツコナジラミ						

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	DMTPを含む農薬の総使用回数
ぶどう	温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所	カイガラムシ類	200g/10a	9ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	常温煙霧	2回以内 (休眠期は1回以内)

カイガラムシの越冬と防除適期（幼虫発生時期）—東海地区A県の例—

カイガラムシ種類	越冬世代	発生回数／年 (産卵回数)	幼虫のおよその防除適期※
クワシロカイガラムシ	成虫	2～3回	5・7・9月
ミカンヒメコナカイガラムシ	主に1～2齢幼虫	3～4回	5月中旬、6月中下旬、8月中下旬
フジコナカイガラムシ	2齢幼虫	3回	6月上旬、7月中旬～8月上旬、9月上旬～中旬
ミカンマルカイガラムシ	成虫	2回	6月中旬、8月中旬
サンホーゼカイガラムシ (ナシマルカイガラムシ)	1齢幼虫	3回	5月下旬～6月中旬、7月中旬～8月中旬
ヤノネカイガラムシ	成虫または幼虫	2～3回	6月上旬～中旬、8月下旬～9月上旬
ルビーロウムシ	成虫	1回	6月下旬～7月上旬
ツノロウムシ	成虫	1回	6月下旬～7月上旬、7月下旬～8月上旬

※地域、天候により、防除適期は異なります。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●防除日誌に記帳しましょう。

*この資料は、2019年10月現在の知見に基づき作成したものです。

効果が期待できる主要害虫

害 虫 の 分 類		害 虫 名	効 果		
クモ綱	ダニ目	コナダニ科	ロビンネダニ	○	
昆 虫 綱	アザミウマ目	アザミウマ科	チャノキイロアザミウマ	◎	
			ミナミキイロアザミウマ	○	
	クダアザミウマ科	カキクダアザミウマ	○		
			カキノヒメヨコバイ	○	
	ヨコバイ科	チャノミドリヒメヨコバイ	○		
	キジラミ科	ミカンキジラミ	◎		
	アブラムシ科	ユキヤナギアブラムシ	○		
		リンゴワタムシ	◎		
	コナジラミ科	ミカンコナジラミ	◎		
		オンシツコナジラミ	◎		
	カメムシ目Ⅰ	コナカイガラムシ科	マツモトコナカイガラムシ	◎	
			バイナッブルコナカイガラムシ	◎	
			キュウコンコナカイガラムシ	◎	
			フジコナカイガラムシ	◎	
			クワコナカイガラムシ	◎	
		マルカイガラムシ科	ミカンヒメコナカイガラムシ	◎	
			ツノロウムシ	◎	
			カタカイガラムシ科	カメノコロウムシ	◎
				ルビーロウムシ	◎
			マルカイガラムシ科	アカマルカイガラムシ	◎
	カッタルマルカイガラムシ	◎			
	サンホーゼカイガラムシ (ナシマルカイガラムシ)	◎			
	ミカンマルカイガラムシ	◎			
	クワシロカイガラムシ	◎			
	ウメシロカイガラムシ	◎			
	ヤノネカイガラムシ	◎			
カメムシ目Ⅱ	カメムシ科	ツヤアオカメムシ	○		
		クサガカメムシ	○		
コウチュウ目	カミキリムシ科	ゴマダラカミキリ	○		
ハエ目	ショウジョウバエ科	オウトウショウジョウバエ	○		
チョウ目	ハマキガ科	ナシヒメシキウイ	○		
	ハモグリガ科	モモハモグリガ	◎		
		ギンモンハモグリガ	○		
	シキウイガ科	モモシキウイガ	○		
	ツトガ科	モモノゴマダラノメイガ	○		

【注意点】実際の薬剤使用時には、使用する薬剤の登録内容（作物名、適用病害虫名、希釈倍数、使用液量、使用時期、本剤の使用回数、使用方法等）を確認し、必ず遵守してください。また、同じ害虫種であっても、各地域の個体群間で感受性が異なる場合があるため、その際は地域で得られている知見を優先させてください。

注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などアルカリ性薬剤との混合はしないでください。
- 施設内で使用する場合には、野外で散布する場合の注意事項を遵守すると共に、窓を開放する等換気に十分注意し、散布液が施設内にこもらないようにしてください。
- 蜜に対して影響があるので、周辺の果実にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ミツバチの巣箱およびその周辺にからないようにしてください。
 - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園などで使用をさけてください。
- 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- カメムシ類に対しては、発生に応じて繰り返し散布してください。また園外からの成虫の飛来が多いので、広域一斉防除および周辺の草木への散布をお勧めします。
- ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合は、生育密度が高まると効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布してください。なお、蛹に対する効果は劣るので約一週間間隔で2～3回くり返し散布してください。
- ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残りのないよう丁寧にこなしてください。
- ブドウアブラムシに使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 施設メロンに使用する場合は、効果期（交配後～玉吊りまで）及び日中高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので控えてください。
- なしに使用する場合は、5月～6月上旬の新葉展開時の散布では、新水、幸水、豊水には薬害を生じるおそれがあるので控えてください。
- ももに使用する場合は特に散布濃度を厳守し、樹勢のおとろえた園における散布は時に薬害のおそれがあるので控えてください。
- 花卉・花木類は、品種・栽培条件などによっては薬害を生じるおそれがあるのであらかじめ安全を確かめてから使用してください。特に開花時に散布すると、花弁や苞などに薬害を生じるおそれがあるので控えてください。
- 長期貯蔵品に散布すると固まるおそれがあるので、密封して鍵のかかる乾燥した冷暗所に保管してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種にはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 医薬用外劇物です。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出さず、直ちに医師の指導を受けてください。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指導を受けてください。
- 解毒剤としては動物実験で硫酸アトロピン製剤およびCPAM製剤が有効であると報告されています。眼に対して刺激性があるため眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の指導を受けてください。
- 皮膚に対して刺激性があるため皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布などの作業の際は防護マスク、不透水性手袋、不透水性防雨衣などを着用してください。作業後は直ちに手洗、顔などを石けんでよく洗い、洗眼、うがい、をすとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服などは他のものは分けて洗濯してください。
- 常温煙霧中は施設内に入らないでください。また、常温煙霧処理後は施設を開放し、十分換気した後に入室してください。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池などに飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用済りの薬液が生じないように調整をおこない、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川などに流さないでください。また、空容器、空袋などは水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した場所にカギをかけて保管してください。盗難・紛失の際は、警察に届け出てください。